

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 泉南市
 実践研究校名 東小学校

【公開授業】公開日：平成25年11月28日（木）

対象学年：第6学年

<p>(教材・教科書名)</p> <p>(单元名)</p> <p>What chores do you do? どんなお手伝いをする？</p>	<p>(本時の指導の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の表現に「お手伝い」をつなげて長いスキットやスピーチができる。 友だちの発表を聞いてコメントを言うことができる。 短い絵本が読める。
--------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(本時の授業において工夫した点)

- ピクチャーカードを使ってお手伝いのフレーズがすぐ言えるように授業を行った。
- 既習の表現をつないで長いスピーチやスキットが発表できるように、アイコンを使い一目で表現が言えるように工夫をした。
- 友だちの発表を聴いてコメントが言えるように“Make nice comments.”の例文を掲示しておいた。
- 多読指導の際、実物投影機とモニターを使用して全員が読めるように工夫した。

(授業を終えた教員の感想)

- 支援学級に在籍している児童、2学期に転校してきた児童、英語が苦手だと思っている児童も含めて、全員積極的に取り組み、立派に発表ができた。
- スピーチやスキットを発表する際、ジェスチャーを工夫して大きな声で発表ができた。また、友だちに適切なコメントも言うことができた。
- HRTとJTEの役割分担がうまくでき、Only Englishで児童と一体となって授業を進めることができた。
- 多読指導では、児童が自力で読むだけでなく、ミニブックの内容も理解できていた。

【研究協議会】

<p>(テーマ)</p> <p>①既習の表現を継続して覚え、コミュニケーション活動に活かす指導の工夫</p> <p>②HRTとJTEの効果的な役割分担について</p>	<p>(指導・助言者)</p> <p>(J-SHINE 小学校英語指導者認定協議会)認定講師</p> <p>赤松 由梨 先生</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

テーマ①について

- 朝の会やすき間の時間にフラッシュカードで練習して習熟させている。
- DVDを繰り返し見せたり、CDで練習をする。児童が習った英語の表現を生活の中で使いたがる。

- ・アルファベットの大文字カルタを2人でやり、リーグ戦をして習熟させている。
- ・朝の会で Greetings を毎日やっている。
- ・音楽の時間に英語の歌の復習をやっている。
- ・他教科ともリンクさせて英語を使っている。

テーマ②について

- ・学級担任の役割分担を徐々に増やしている。また、担任も DVD 等を観て勉強するようにしている。
- ・担任がまず積極的に英語で話す姿を子どもたちに示し、子どもたちにもそうなってほしいと願っている。
- ・2人で指導しているので、スキットでは子どもの前で手本を示せる。そうすると、いちいち日本語で説明しなくても子どもたちはより理解ができる。2人の指導者がいることは大変有難いことだと思っている。

(まとめ・講師評)

1. 小学校外国語活動を成功させる3つの要素は、「よいカリキュラム」「よい教材」「よい指導者」。東小学校はこの3つが揃っている。
2. 子どもは、英語の表現を場面で覚えるのが特徴でカメラで撮ったように覚える。その意味で DVD はとても効果的な教材である。
3. 教師の発音に関しては心配はない。子どもは正しい発音を聴き分ける力があるのでよい発音を真似る。どんどん発話することが大事。
4. 小学校英語は、他教科とリンクさせることができ、すき間の時間を活用できる。給食、掃除時間などインプットに活用できる。インプットなくしてアウトプットは無い。アウトプットのためには2000時間のインプットが必要である。
5. 小学校英語がうまくいくかどうかは、8割担任力だと言われている。小学校の担任の先生は、自信をもってやってほしい。
6. 東小学校は、綿密なカリキュラムのもとで指導している。1・2年：音声インプット、3・4年：文字指導、5・6年：フォニックス、多読指導。今日の児童の〇〇さんは初めての教材でもリズムカルに読めていた。これは体の中に英語の音声が流れているから、どこにアクセントを付ければよいかなど自然とわかっている。まさに、6年間の集大成が表れていた。
7. 少人数のメリットを十分に活かしている。きちんとしたカリキュラムで素晴らしい成果がみられた。音声→フォニックス→多読。
8. フォニックスをするかどうかをアメリカで百年間論争になっている。フォニックスルールでカバーできるのは7割で、後は Sight Words で覚えなくてはならない。日本でフォニックスが根付くかどうかは、今のところはわからない。
9. 言葉を使う素地ができていく。(日常で使っている)ところが素晴らしい。
10. 言葉の学習を通して、どんな子どもに育てていくかが大事である。